

第90号

2025年1月
認定特定非営利活動法人

麦の会

TEL&FAX

022-299-1279

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町17-1 郵便振替口座 02200-8-46178

E-mail: muginokai@k5.dion.ne.jp <https://www.muginokai-koppe.com>

目次	コッペの現状	飯嶋 茂	… 1p
	コッペの皆様へ	後藤 祝子	… 2p
	おにの子新聞より転載		… 3p
	自己紹介①	杉山 裕信	… 4p
	コミュニティカフェ報告	久保 純子	… 5p
	ピアカフェ	佐藤 順子	… 6p
	ユウタさんのお勉強とイラスト4	落合 佑太	… 8p
	自己紹介②	大友 芽央	… 9p
	ソレイユまつり	氏家 大介	… 10p
	新聞記事より		… 11
	考える	阿部 央希	… 12p

コッペの現状

飯嶋 茂

2024年度は開業より35年を過ぎたコッペの高齢化の影響がまともに出た年度となっています。春に心筋梗塞で入院したTさん。文書を寄せてくれた後藤祝子の入院。お連れ合いの靖さんは、高齢者のデイサービスへ移行。他のメンバーも今までできていたことが難しくなってきた人がいたり、はてさてこの先どうしていったらいいか、悩みはつきません。

10月から12月の繁忙期は、多くの注文を頂き本当にありがたいことです。しかし人手不足も重なり、スタッフ・障害メンバーにも多くの負担をかけてしまいました。みんな頑張ってくれたことに感謝します。今後、繁忙期をどう乗り越えていくのか、これも課題です。

4月にオープンしたコミュニティカフェは、現在事情によりカフェは休業状態になってしまっているなど、こちらも課題は多くありますが、子ども食堂やいろいろなイベントの開催など、コミュニティスペースとしての役割は広がってきています。

今回、埼玉の「おにの家」さんの会報より転載させていただきました。互いに同じ思いでやっていますねと知り合い、コッペでは、おにの家さんのみそを使って「おにみそクッキー」を作り、おにの家さんが運営している「おにっこハウス」では、コッペのクッキーを販売していただいています。ありがとうございます。今後ともよろしく願います。

コッペの皆様へ

後藤 祝子

ここまで生きてきて、こんなに長い休み・入院・手術を経験するなんて思ってもいませんでした。休みの中、コッペの皆さんにご迷惑をおかけして心苦しく思っています。

4月、通院していた眼科から大学病院を紹介されましたが目の治療なので自分で運転して行くことができません。また、耳が遠いので案内係の説明や自分が呼ばれたかどうか分かりません。先生と会話するのも大変で付き添いが必要となり、私の娘や甥やその嫁にも頼んで交替で付き添ってもらい、話をつなげてもらいました。

8月、入院が決まり夫の靖の介護を短期入所という形で頼むことになりましたがなかなか入所先や入所日が決まらず、担当ケアマネさんとも連絡がとりにくくどうしたらよいか気を揉みました。9月2日の夜にやっと連絡がとれて翌日の9月3日入所し9月4日に私が入院しました。

9月5日に右目の手術をしました。開放隅角緑内障による視機能障害で高眼圧だったので、マイクロフックロトミー、トラベクトームという眼内法で角膜切開・切開器具挿入して線維柱帯の一部を切開除去などの手術を行いました。1週間で退院しましたがめまいやだるさがひどく、視界が安定しませんでした。毎週大学病院に通院しましたが眼圧が下がらず内服薬を変えてみたり点眼薬を変えてみたりレーザーや点滴の処置をすることもありました。視界が安定し車の運転が許可されたのは10月になってからでした。眼圧がどうしても下がらず先生が首をひねる中、眼球の中身(硝子体)が漏れ出ると言われて検査すると右眼内レンズ脱臼があるとのことでレンズの位置を正常の位置に戻して縫い付けるという手術が必要になりました。

11月にその右目の手術と、もともと残っていた左目の開放隅角緑内障の手術を続けて行うことになりました。左目も高眼圧で視神経が委縮し視野狭窄なので、繊維柱帯を切開して房水を流れやすくして眼圧を下げて視神経萎縮の進行を遅らせる入院手術でした。

12月に退院しましたがやはり右目の眼圧は高く、まだ通院は続きます。毎週付き添いを頼むのは大変なので練習して1人でバス通院を経験しました。夫の靖の短期入所も4か月になり、その間も月1回の通院と注射は欠かせないため、入所施設の看護師と夫の通院に毎月付き添いました。毎週予約して施設に面会にも行きました。

現在、毎日の点眼が7種類×1日4回で、1種類ごと5分空けなければならないので1回の点眼に30分以上かかっています。種類が変わったりすると覚え直しです。視野が狭くなっており、よくぶつかります。ぐにやりと歪んで見えたり変な色がにじんで見えたり、遠近感が無く浮き上がって見えたりします。夕方暗くなると見えにくいしライト等のまぶしいのも反射して見ていただけられません緑内障は手術をしたからといってよくなる病気ではありません。あくまでもこれ以上悪くなるのを食い止めるだけです。3回手術した中で2回目のレンズを縫い付ける手術は2時間かかり、大きな手術だったのでゆっくり経過を見ていくと先生に言われました。こんな拙文で申し訳ありませんが、これから私のできる範囲で頑張りたいと思います。

おにの新聞



地域福祉活動グループ NPO「おにの家」

埼玉県熊谷市板井 1220-1

電話 048-536-1344/FAX048-536-1915

<http://onikko.org>

ありがとう

おにっこハウスは今から37年前、大きな施設ではなく地域の中で働きながら暮らす場を築きたいと、現理事長の尾島茂さんと1人の当事者仲間・渡辺賢一さん（通称“けんさん”）の2人でスタートしました。

1年目の味噌作りに失敗して500万の損失を出したり、夏の間は別の仕事をして日銭を稼いだりと、おにっこハウスの事業が軌道に乗るまでは、まさに紆余曲折の二人三脚の日々でした。

1996年にグループホーム小原が開所し、生活の場もおにの家へ移ったけんさんは公私共におにっこで長い間生活を送ることになりました。

けんさんは味噌仕込みの工場長と呼ばれ、蒸した熱々のお米を持ち上げたり、重い味噌樽も「けんさんと一緒なら運べるね」と、細い体ながらも力持ちでした。味噌詰めではトントントントンとリズムカルな木べらの音を周囲に響かせ「あっ！この音けんさんが味噌詰めしてるネ」と、その職人技で上手な味噌詰めをたくさんたくさんしてくれました。

そんなおにっこの創設者と言える渡辺賢一さんが今年8月3日、74歳の生涯を閉じました。

人生の半分をおにっこで過ごしたけんさん、そのけんさんを皆で語り送りたいと10月2日に偲ぶ会を開きました。会には40名の方が参加され、けんさんが大好きだった石原裕次郎のBGMを流し、大好きな食べ物を並べ、付き合いが長い方々から思い出話の数々を聞き、子供の頃から現在に至るまでのスライドショーを流し、けんさんがおにっこで過ごしてきた時間の長さ、関わってきた人とのつながりを、あらためてかみしめました。



—けんさんのおにっこでの歴史は、おにっこハウスの軌跡でもありました。

けんさん — 穏やかで優しく力持ち。食べ物の好き嫌いがいっぱいあったけどけんさんが食べられるものを作って美味しそうに食べてくれるのを見るのもとても嬉しかった。

カラオケが大大大好きで、忘年会や旅行では、いつも一番にその美声を聞かせてくれました。

今もふらっと「おはようございます」と挨拶して入ってくる、そんな気がしてなりません。

けんさんたちが築いてきたおにっこハウス。これからの私たちを、どうぞ見守っててください。



今まで ありがとう。 けんさん

（松村 理香）

杉山裕信(すぎやま ひろのぶ)です！

私は4月からコッペに来た杉山です。

4年前までは、たすけっとという団体に障がい者当事者運動をしていました。たすけっとは1995年1月に発足しましたが、コッペとはそのころからの付き合いで、かれこれ30年になります。

妻の会の飯嶋さんと猪俣さんにたすけっとの会員と運営委員になってもらって、いっしょに活動していました。私はたすけっとの活動をやめてから体調を崩して1ヶ月入院したこともあり、在宅でいることが多かったのですが、生活に張り合いを付けようとコッペに通うことにしました。コッペには週2回、水曜と土曜の11時から15時までいます。私は今は、仙台市の障がい者相談員をしていますので、それを活かせるような活動ができればいいなと思います。

他の活動としては、旧優生保護法問題に関する活動をしています。

詳しい話はまたの機会にしますが、近々最高裁判所で審議があり今年の夏ごろには判決が出るようです。私は2003年からこの問題にかかわっていますので、感慨深いものがありますが、たとえ勝訴してもそれで終わりではありません。最終的な目標は首相が優生手術被害者に謝罪して、それ相応の金額の国家賠償金を払い、今後はこのような法律は絶対作らないことと障がい者差別をしない社会を作ること、首相、政府、国会に約束させることです。2024年7月3日の最高裁大法廷の判決が下り、原告全員の勝訴が決まりました。その後12月の現在は首相が原告に直接会って謝罪し、(私もその場にいた)10月はじめにあった臨時国会で優生手術被害者救済法が可決成立した。来年1月17日から法律施行で5年間の施行期間の予定です。

この裁判の活動が山場を越えひと段落したら、ゆっくりできるのかな。

こんな私ですが、今後ともよろしくお願いします。



ピアカフェで、司会を
することもあります

4月にOPENした「コミュニティカフェ コッペ&エフブンノイチ+」では、試行錯誤を繰り返しながらたくさんの方のご協力を得て、福の市、夏まつり、影絵人形劇鑑賞会、ふみきり市、アロマやお花、エステ、絵本などのイベントを行ってきました。また、地域の方の会合や、マルシェなどでスペースを使っただけで機会も増えてきました。

「松岡町子ども食堂」は、5月から始めて毎月第3土曜日に開催しています。12月で8回目になります。

毎月、前日からメンバーさん、ボランティアさんが一緒に活動しています。毎回50食前後のご利用があります。

ありがたいことに、メンバーと一緒に作ったり、配膳したり…の他、演奏や、手品などで盛り上げていただくボランティアさんも増えています。

今までのメニューとしては、「カレー、パスタ、豚汁、ハヤシライス」に、すまいる作業所さんに提供いただいた「おからサラダ」が定番になっています。

ふうどばんく東北あがいんさん、11月からはあいコープみやぎさんにもご協力をいただいて、より安心な材料で、ボリュームもUPしてきました。

これからもご近所のファミリーのみなさま、孤食の方、どなた様もまた行ってみようと思っただけの子ども食堂を続けて行きたいと思います。ぜひお越しください！

今月12月21日(土)

11時半～

(ゲスト 手品ふーみん)

来月、2025年1月25日(土)

11時半～

(ゲスト 鶴ヶ谷東マイスクール児童館による遊びのコーナー)



第9回 松岡町 子ども食堂

1月25日(土) 11時半開店!

子どもは無料
大人は、協力金として300円をお願いします。

今月のメニュー
カレーライス
おからサラダ
デザート考案中!

鶴ヶ谷東マイスクール児童館
あそびのコーナー!

子どもじゃなくても大歓迎!
お子さんだけでも大歓迎!
ボランティアさんも大歓迎!
食材の寄付も大歓迎!

ピアカフェ

サトウジュンコ

令和6年4月、宮城野区松岡町のコッペの隣の隣りに「コッペ&エフブンノイチ+」がオープンしました。駄菓子やパンやクッキーがあってインテリアも可愛いステキなお店でコッペのメンバーも作業をしています。そこで[旧CILたすけっと]のメンバーが集まる[リブレみやぎ]の協力で、「ピアカフェ」というサロン活動を企画しました。

ピアとは「仲間・同僚」という意味。「いろいろなテーマで、テーマに関心のある方、寄り添いたい方、自分の考えやモヤモヤを声に出したり誰かに聞いてもらったり...知って学んで前向きになれるカフェタイムをお楽しみください」ピアカフェのチラシでお知らせして、月に1回、第一水曜日の午後3時から4時まで、ゲストをお招きして、その方を中心に、コッペ&エフブンノイチ+のカフェスペースをお借りして茶話会。コーヒーや紅茶を飲みながら情報交換したりや親睦を深めたりしています。

第一回目のピアカフェは7月3日、「国際理解カフェ」と称し、ゲストは台湾出身の鄭郁蓉さんでした。私もお世話になっている青葉区八幡地区の民生福祉委員さんです。台湾の地図を見ながら、台湾の食べ物やお菓子、街の様子などの台湾の最新情報や言葉や歴史についてお聞きしたり、鄭さんが来日した頃のお話しやご家族で仙台に拠点を移し民生委員になったきっかけなども伺いました。

第二回は、8月7日は「合理的配慮カフェ」ゲストは杉山裕信さん。今年4月から事業所に障害のある人に対する合理的配慮が義務化されました。仙台市の合理的配慮パンフレットを見ながら杉山さんの説明をお聞きした後、合理的配慮って具体的にどんなことなんだろうとか、合理的配慮に関してのあるある話なども話題に。合理的配慮を必要としている側も合理的配慮を行う側もやり取りをして、お互いの出来ることを増やしていくことが目的です。



第一回



第二回

第三回は9月4日「アピール大行動カフェ」ゲストは[みやぎアピール大行動]実行委員長の及川智さん。県内40あまりの福祉事業所や障害者団体が加盟して毎年おこなわれ、今年も9月16日にせんだいメディアテークで開催されました。その直前に行われたこのカフェでは、及川さんからは、これまでの[みやぎアピール大行動]の歩みをお話し頂きました。

第四回のピアカフェは10月2日「視覚障害についてカフェ」ゲストは嶋原真一さん。仙台市視覚障害者福祉協会の副会長である嶋原さんは、中途障害であるがための困り事や視覚障害者全般の困り事を質疑応答しながらいろいろお聞かせ頂きました。耳からの情報を得るための環境への配慮や見えない方への状況や情報の伝え方もお聞きしました。



第三回



第四回

第五回は11月6日「看護サービスの[いろは]カフェ」ゲストは鳴海幸さん。私も呼吸器のリハビリで訪問して頂いているフリーランスの看護師さんです。メッセンジャーナースの資格もお持ちです。たくさんの方が参加してくださって、知らなかった看護サービスについてや活動のお話も聞けて「良い会でした」との声もあちらこちらから伺い、ピアカフェの広がりを感じられた会でした。しかし私はナントその朝に結石の痛みでピアカフェを欠席。医療と福祉の両輪を身にしみて感じた日となりました。

第六回のピアカフェは、12月4日「手話も言語ですカフェ」ゲストは渡辺照代さん。照代さんは電動車イスを使って生活されている肢体不自由の障害者ですが、聴覚障害者でもある、いわゆる複合障害、重複障害をお持ちの方。コロナ禍でのご苦労をご自身のお声でお伝えくださいましたが、実は照代さんにはご自身のお声は聞こえません。生まれながらに聴覚障害があつて、照代さんはどのように発話を獲得したのか。聴覚障害のある人が発話者の口の動き(読唇)を読み取って理解し、口の形と音声で表現するコミュニケーション方法である口話術や筆談や聞こえないということを伝える方法などのお話しを、手話通訳者の方々にも参加して頂いて、楽しむことが出来ました。



第五回



第六回

次回1月の第一水曜日は元旦なので1月のピアカフェはお休みさせていただきます。

2月のゲストはデンマークに留学経験のある障害当事者の坂本波奈さん。3月のゲストはスコットランド出身のバグパイパー、ジェラルド・ミューヘッド先生。4月のはのゲストは宮城県障害者権利擁護センター・障害者差別相談センターの鈴木みゆきさんをお迎えする予定です。どうぞ楽しみに。

4

くり上がりのある
たし算

月	日	時	分	時	分
名			点		
前			点		

1 計算をしましょう。

1つ2 [32点]

1

	3	8
+	5	4
	9	2

2

	6	2
+	1	9
	8	1

3

	2	4
+	2	7
	5	1

4

	1	7
+	4	6
	6	3

5

	2	9
+	1	3
	4	2

6

	4	5
+	2	6
	7	1

7

	7	4
+	1	9
	9	3

8

	3	6
+	2	8
	6	4

9

	5	4
+	3	6
	9	0

10

	1	9
+	5	1
	7	0

11

	2	5
+	6	5
	9	0

12

	4	2
+	1	8
	6	0

13

	3	9
+		5
	4	4

14

		8
+	4	8
	5	6

15

	6	3
+		7
	7	0

16

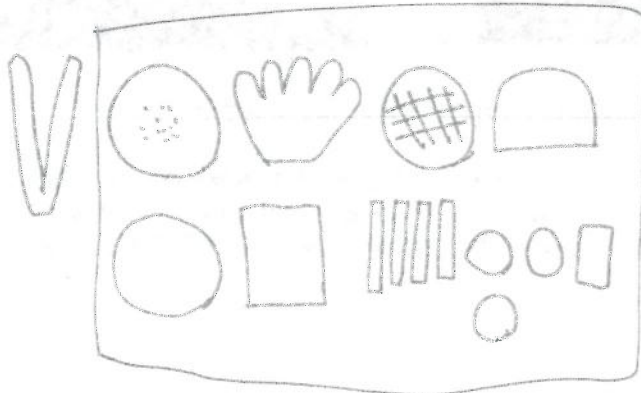
		6
+	5	4
	6	0



ちゅうい 一のくらいからじゆんにくり上がりに気をつけて計算します。くり上げた1を小さく書いておくとよいでしょう。



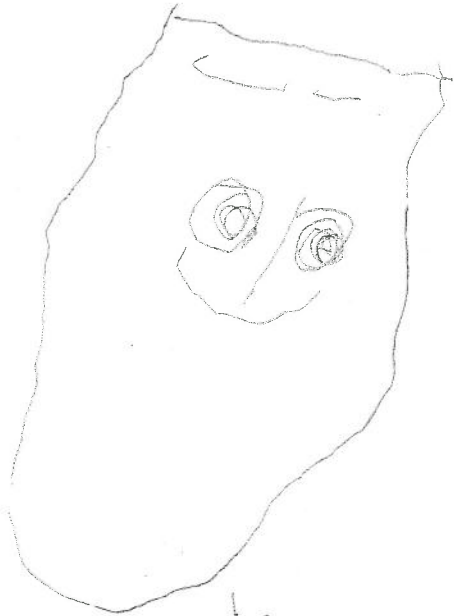
小学2年 計算



あたしのまへは、
お母さんです。

「アブラサエ」お母さんです。

おまかせ



「アブラサエ」

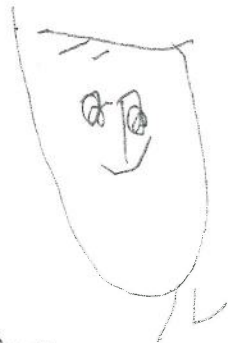
おまかせです。

おまかせです。

おまかせです。

おまかせです。

おまかせ



おまかせです。

おまかせ

おまかせです。



ソレヨマツリ 10月19日土 氏家 大介
ソレヨマツリにほしくとキク4さんと
オオチヒロの3人でウマ屋にのこて
ソレヨマツリにいきました。パンとクッキーの
販売をしました。いら(せ)しま(せ)パンとクッキーは
レカカ(カ)で(カ)す(カ)ま(カ)とめ(カ)か(カ)を
お(カ)か(カ)い(カ)ま(カ)す(カ)と(カ)い(カ)ま(カ)した(カ)。
た(カ)く(カ)さん(カ)の(カ)お(カ)客(カ)さん(カ)に(カ)ま(カ)つ(カ)て
も(カ)ら(カ)い(カ)ま(カ)した(カ)ニ(カ)パン(カ)は(カ)あ(カ)つ(カ)と(カ)ゆう(カ)ま
に(カ)完(カ)売(カ)ま(カ)した(カ)。た(カ)く(カ)さん(カ)の(カ)し(カ)つ(カ)の(カ)人(カ)に
あ(カ)り(カ)ま(カ)した(カ)す(カ)ま(カ)い(カ)る(カ)ハ(カ)ヒ(カ)カ(カ)ム(カ)カ(カ)マ(カ)イ(カ)ロ(カ)カ
ソ(カ)レ(カ)イ(カ)の(カ)み(カ)ん(カ)な(カ)に(カ)あ(カ)い(カ)ま(カ)した(カ)。
た(カ)の(カ)し(カ)か(カ)つ(カ)た(カ)て(カ)り(カ)あ(カ)。

仙台の市民協働

「看板倒れ」

仙台市の「市民協働」は看板倒れか。中心部の2大施設が老朽化による大規模改修工事で使えず、活動拠点にしていた福祉団体が途方に暮れている。市シルバーセンター(青葉区)が今年4月から、市福祉プラザ(同)も今月1日から休館。工期の重複は今後、1年5ヵ月にも及ぶ。市は代替施設として各市民センターの活用を促すが、休館の余波で抽選倍率が上がり、狭き門となっている。

(せんだい情報部・門田一徳)

東日本大震災で仙台圏の被災者の心のケアなどに取り組むNPO法人「仙台傾聴の会」は、ボランティアの研修会や定例会で多し月に10回ほど福祉プラザを利用してきた。

応募多数で抽選

11月と12月の代替場所として市民センター5、6カ所を申し込んだが、応募多数で抽選の結果、各月1

福祉団体利用の2大拠点

同時期改修 1年5ヵ月休館



休館前の仙台市福祉プラザで、仙台傾聴の会が駆け込みで開いた講座。10月29日、青葉区五橋2丁目

カ所しか当たらなかった。60人以上が集まる会合もあり、森山英子代表理事は「開催を待ち望んでいる市民の方々に申し訳ない」と困惑する。

休館の影響は、市民センターで日常的に活動している団体にも広がる。市地域政策課によると、地下鉄駅に近い市民センターで11月の申込数が急増。太白区中央市民センターは前年同月比48%増の567件、若

代替施設なく「活動が衰退」

林区荒町市民センターは12%増の636件に上った。

「使用料の減免を市民センターでも受けられるよう対応した」。市社会課の担当者は福祉団体への配慮を強調するが、抽選に外れ、割高な民間施設の使用料を負担して活動を続ける団体も出ている。

シルバーセンターは1992年、福祉プラザは94年のオープンで、どちらも30年以上経過した。休館は長寿命化工事に伴う措置で、工期はシルバーセンターが2026年3月まで、福祉プラザが同10月まで。

両施設には100人超を収容できるホールが計三つ、研修室などが計17室ある。福祉団体、高齢者団体の活動の場として定着し、22年度の延べ利用者は計約16万人に達する。

要望もゼロ回答

県内約40の福祉団体などをつくる「みやぎアピール大行動実行委員会」は昨年12月以降、代替施設の提供などを求めて市と4回にわたり協議や要望を重ねてきた。

福祉プラザ休館直前の10月30日にも、改めて要望書を市に提出した。実行委の警見俊雄代表は「代替施設はずっとゼロ回答。検討しているのかどうかも分からない。仙台市が掲げてきた市民協働と全く逆の対応で、このままでは市民活動が衰退する」と批判する。

考える

阿部央希

自分をもっとよく考えて基本は
大事な係をしっかりと賞えたいと
思っています。自分もしっかりと
よく係を見てしっかりとプライド
かけて本当に係を賞えたいと
思っています。自分のエ魂は
本当の集中と努力はあります。
25年目はしっかりとします。